ISSN 1229-7275
http://dx.doi.org/10.14817/jlak

日本語學研究

第44輯 (2015.6)

「てもらう」文の用法決定に関わる要因	金殷模	3
弓場重栄の三つの学習書にみられる日本語について -『簡易捷径日語独学』の日本語を中心に-	齊藤明美	23
日本語学習者の推量·確認要求表現の使用条件	李吉鎔	43
敬語の成人後採用と追跡調査データ	井上史雄	57
「N_1ナN_2」連体表現について	李明玉	71
젊은 층 대화에 나타나는 「なんか」의 사용양상 -여대생 친구 간 대화를 중심으로-	이은미	87
正倉院萬葉假名文書(乙)에 관한 一考	이지수	101
日本語の乳幼児期にみる美化語	鄭貞美	119
負担度が軽い「謝罪談話」における韓日対照研究 -韓日男女大学生を対象として-	鄭賢児	133
授受動詞を用いた命令文とポライトネス	崔善喜·姜錫祐	151
日本語複合動詞のコロケーション -大規模コーパスの調査結果を通して-	何志明	167

휘보
연구윤리규정
투고 규정 및 요령
기 발간호 목차
편집후기
회칙
학회 발표 요지문 작성 요령
논문 심사 규정
임원명부

韓國日本語學會
http://www.jlak.or.kr

ISSN 1229-7275
http://dx.doi.org/10.14817/jlak

Journal of Japanese Language

No.44 June , 2015

Determinants of the use of the "te morau" statement	Kim, Eun-Mo	3
Japanese Language Seen in the Three Textbooks by Juei Yuba :Focusing on the Japanese in "Kan'i Shokei Nichigo Dokugaku"	Saito, Akemi	23
Constraints on the use of expressions of supposition and request for confirmation	Lee, Kil-Yong	43
Late adoption of honorifics and Panel survey data	Inoue, Fumio	57
About the adnominal expression "N_1+(na) N_2"	Lee, Myung-Ok	71
The use of 'Nanka' in conversations between young generations: Focusing on conversations between female university students	Lee, Eun-Mi	87
A Study on Borrowed-Character Expression in the Manuscripts of Jeongchangwon (Eul grade)	Lee, Ji-Soo	101
Honorific prefixes in Japanese language during infancy	Jeoung, Jeoung-Mi	119
A Study of Korea-Japan Comparison of 'Discourse of Apology' in a lightly imposing scene :Targeting Korea and Japan male and female college students	Jung, Hyun-A	133
Imperative Sentences that Employ Give-and-Receive Verbs and Politeness	Choi, Sun-Hee·Kang, Suk-Woo	151
A Study of the Collocation of Japanese Compound Verbs by Investigating Major Corpus	Ho, Chi-Ming	167

The Japanese Language Association of Korea

http://www.jlak.or.kr

ISSN 1229-7275
http://dx.doi.org/10.14817/jlak

日本語學研究

第 44 輯

2015. 6. 20.
韓國日本語學會

日本語學研究第44輯(2015. 6. 20. pp.167~181)　http：//dx.doi.org/10.14817/jlak.2015.44.167

日本語複合動詞のコロケーション*
―大規模コーパスの調査結果を通して―

何志明**

〈 Abstract 〉

A Study of the Collocation of Japanese Compound Verbs by Investigating Major Corpus

This paper aims to examine the collocation of Japanese compound verbs by using a major corpus, Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese (BCCWJ) "Chûnagon" developed by the National Institute for Japanese Language and Linguistics. It is difficult for Japanese language teachers to teach Japanese compound verbs in the classroom environment since there is a large number of compound verbs to cover. In order to lighten the instructor's burden on teaching compound verbs, the author proposes that it is not necessary for Japanese language teachers to teach all compound verbs but only those most frequently used by native speakers of Japanese at the start of the learning process. The findings of this paper provide significant clues to determine the frequently-used compound verbs and their collocation by using data derived from the BCCWJ "Chûnagon". The major findings in this paper are:

1. In the collocation of compound verbs, "wo" is the particle that can co-occur with a largest number of compound verbs.

2. Japanese language learners can apply the collocation information to their learning process of compound verbs. It is important for them to know not only the compound verb itself but also its usage.

Field : Other Japanese Studies
Keywords: Japanese compound verb, Corpus, Collocation, Survey

1. はじめに

日本語の複合動詞は，学習者にとって習得が難しい項目の1つであると言われており，複合動詞の使い方がわからないことがその原因の一つとされている。複合動詞は動詞，形容詞，名詞など他の品詞と同様，意味だけでなく，共起する語彙や助詞の使い方，いわゆるコロケーションも理解しておかなければ使いこなすことができるとは言えない。例えば，何(2012:275)は，「取り調べる」の場合，単純動詞(または単独動詞)の「調べる」と違って，共起できる目的語は「辞書」や「情報」のような「物」ではなく，「容疑者」や「犯人」のように「罪を犯した（または犯したと疑われる）人」でなければならないと指摘している。さらに，何(2012:275)では，「将来，複合動詞の辞書を作成する際，複合動詞の意味と使

* This research is supported by the "General Research Fund for 2011/2012", Research Grants Council, Hong Kong (Project title : "The Usage of Japanese Compound Verbs", Project code : 445811).
** 香港中文大学 日本研究学科 准教授，日本語学

い方をはじめ，関連語彙と共起する助詞の使い方も学習者にとって重要な情報になる。」としている。そこで，本稿では，複合動詞のコロケーションに注目し，コーパスのデータを用いて，日本語母語話者によく使用されている複合動詞を考察する。

2. 先行研究

砂川(2010:106)は，コーパスは，コロケーションや類義語といった語法研究を大きく進展させる力強い武器であると述べている。コーパスによって，複合動詞そのものの使い方だけでなく，その関連語彙の知識も同時に学習者に紹介することが可能になる。松田(2004:2)では，「複合動詞の結合条件」，「単純動詞と複合動詞の使い分け」，「習得方法」の3点が学習者にとって習得の困難点であると述べている。何(2012)では，複合動詞導入の優先順位を提案するために，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所が開発した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』モニター公開データ2009年度版(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese (BCCWJ 2009))及び現在市販されている中上級日本語教科書6冊を利用して，複合動詞の出現頻度の調査を実施し，出現頻度の高い複合動詞(120語)を提示した。調査は現在市販されている，2000年以降に出版された中･上級日本語教科書を6種類(以下参照)選出し，索引または語彙リストに掲載されている複合動詞を調査して出現頻度の高いものを提示した。

【調査した6種類の日本語教科書】
『日本語中級J501―中級から上級へ―』(J501)
『上級日本語教科書 文化へのまなざし』(まなざし)
『中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期』(中56)
『みんなの日本語 中級I』(MI1)
『上級へのとびら コンテンツとマルチメディアで学ぶ日本語』(とびら)
『ニュースの日本語 聴解50』(ニュース)

〈表1〉調査した6種類の日本語教科書に出現している複合動詞の異なり語数

書名	異なり語数
『J501』	113
『まなざし』	90
『中56』	24
『MI1』	27
『とびら』	27
『ニュース』	24

〈表2〉6種類の日本語教科書に出現している複合動詞の異なり語数の内訳及び例

登場した 教科書の種類	異なり語数 (計252語)	複合動詞例
5	1	取り入れる
4	1	落ち着く
3	7	取り上げる，引き受ける，付け加える， 引き起こす，落ち込む，打ち出す， 生まれ変わる
2	32	繰り返す，付き合う，取り組む，受け入れる， 飛び出す，作り出す，押し付ける，思い込む， 追いかける，組み合わせる，受け継ぐ， 追い込む，浮かび上がる，思い浮かべる， 見極める，押し込む，引っ越す，泣き出す， 聞き取る，決めつける，繰り広げる， 投げかける，使い分ける，聞き返す， 盛り上げる，思い浮かぶ，切り捨てる， 割り切る，思い返す，押しつぶす，噛み付く， 並べ替える
1	211	思い出す，受け取る，見上げる，．．．

調査対象となったデータの量に制限があったため，今後も継続調査を行う必要がある。

3. 本研究の目的

本研究では，複合動詞のコロケーションを，現代の言語資料である大規模コーパスを通して考察する。調査を行う際，主要な調査項目は以下の通りである。

a 複合動詞の出現頻度
b 複合動詞と共起する助詞及びその出現数
c 共起する語句とその出現数

4. 研究方法

本研究は，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所が開発した現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)を利用し，現代日本語の複合動詞の使用状況を明らかにする。石井(2007)では，複合動詞の数は約2,500語であると述べているが，本研究ではその約2,500語の複合動詞をBCCWJで調査した結

果，出現頻度の高かったものをリストアップした。検索の方法は何(2014)に準ずる。

例：「思い出す」を検索する場合

①「中納言」の検索画面に入る。②「短単位検索」を選択。③「語彙素」を選択

④「思い出す」を漢字仮名交じりで入力。⑤文中の区切り記号を選択(→なし)。

⑥ 前後文脈の数を選択(→「20」を選択)。⑦検索対象(固定長・可変長・両方)を選択(→「固定長」[1]を選択)

【列の表示】(⑧~⑩の場合，下線のあるものは本研究で選択された項である)

⑧ 形態論情報

「前文脈・キー・後文脈・語彙素読み・語彙素・語彙素細分類・語形・品詞・活用型・活用形・書字形・発音形出現形・語種・原文文字列」から表示したい情報を選択。

⑨ コーパス情報

「サンプルID・連番・レジスター・コア・固定長・可変長」から表示したい情報を選択。

⑩ 出典情報

「執筆者・生年代・性別・ジャンル・書名/出典・副題/分類・巻号・編筆者等・出版者・出版年」から表示したい情報を選択。

BCCWJは3つのサブコーパス，すなわち，書籍・新聞・雑誌が含まれている生産実態（出版）サブコーパス，図書館の蔵書が含まれている流通実態（図書館）サブコーパス，白書・議事録・インタネット資料などが含まれている非母集団（特定目的）サブコーパスで構築されている。本研究では，母集団(生産実態（出版）サブコーパス，流通実態（図書館）サブコーパス)及び非母集団(（特定目的）サブコーパス)のデータをすべて調べ上げ，その合計を複合動詞「思い出す」の出現頻度として記録する。

図1　BCCWJの構成(BCCWJのホームページより)

母集団を検索する際，「出版・新聞，雑誌，書籍，図書館・書籍」を，非母集団を検索する際，「特定目的・白書，ベストセラー・知恵袋，ブログ・法律，国会会議録・広報誌・教科書・韻文」を選択する。

それぞれの複合動詞を「中納言」で検索した結果に基づいて，出現頻度の高い順に並べ替えた。ま

1) 固定長はランダムに選んだ文字を基準として，1,000文字を抽出するサンプルである。この1,000文字は，句読点や符号は含まず数える。サンプルの先頭や末尾は文の途中になるが，検索の際に文脈がきちんと表示されるように，入力は文単位で行う。また，数える対象にはしない句読点や符号もそのまま入力する。抽出比が正確であることから語彙調査，文字調査などの統計的分析に向いている。(BCCWJのサンプリングのホームページ【固定長サンプル】〈http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/sampling.html〉より)

た，検索結果として各複合動詞が含まれている例文をエクセルに記録し，複合動詞のコロケーションを考察した。

5. 結果と分析

BCCWJによる調査結果から，出現頻度1位から100位までの複合動詞を選び出した。それぞれの複合動詞と共起する助詞の中で最も多く出現する助詞とそれに関連する語句を下記の表3に示す。

〈表3〉BCCWJで調査した結果，出現頻度が最も高かった複合動詞100語

固定長順位	複合動詞	助詞	助詞の数	共起する語句(回数)	具体例
1	繰り返す	を	698	こと(52)	
2	思い出す	を	777	こと(243)	
3	見付ける	を	950	【人名】(43)	
4	見詰める	を	786	【人名】(149)	
5	出掛ける	に	418	動詞「ます」＋に(51)	食べに
6	取り組む	に	414	~問題(24)，問題(14)	
7	受け入れる	を	342	それ(25)	
8	出会う	に	348	【人名】(28)	
9	立ち上がる	は	150	【人名】(94)	
10	取り上げる	を	361	問題(26)	
11	受け取る	を	402	それ(26)	
12	振り返る	を	331	ほう(26)，後ろ(26)	
13	落ち付く	が	89	心(15)	
14	取り出す	を	493	煙草(15)	
15	し払う	を	261	円(28)	
16	生み出す	を	419	利益(9)	
17	見成す	と	565	もの(80)，動詞る形(83)	
18	引き続く	に	160	~年度(32)，前年度(30)	
19	引っ張る	を	238	足(27)	
20	作り出す	を	353	もの(14)，状況(14)	
21	付き合う	と	149	【人名】(29)	
22	取り入れる	を	230	技術(7)	
23	飛び出す	が	95	【人名】(9)	
24	申し上げる	を	86	お礼(48)	
25	結び付く	に	144	こと(4)	
26	飛び込む	に	241	目(32)	
26	話し合う	と	79	【人名】(10)	
28	引き上げる	に	108	場所(10)	
29	取り戻す	を	350	落ち着き(25)	
30	引き起こす	を	298	病名(44)	ガン，脳卒中
31	引き出す	を	241	仕事(7)	
32	出来上がる	が	177	もの(10)	
33	見上げる	を	296	【人名】(54)，空(45)	

34	受け止める	を	85	それ(12)	
35	成り立つ	が	104	関係(6)	
36	組み合わせる	を	239	名詞＋など/等(12)	人参，春菊，大根など
37	引き受ける	を	166	仕事(13)	
38	追い掛ける	を	164	後(20)	
39	見掛ける	を	131	動詞＋の(20)	歩いているの
40	持ち込む	に/を	127/99	場所(7)/話(7)	
41	差し出す	を	192	手(35)	
42	乗り込む	に	206	車(25)	
43	思い切る	は	50	【人名】(15)	
44	取り付ける	を	145	約束(8)，合意(6)，支持(6)	
45	見守る	を	146	動詞＋の(17)	子供たちが遊ぶの
46	作り上げる	を	187	システム(8)，もの(6)，世界(6)	
47	し上げる	に	86	もの(4)/作品(4)/形(4)	
47	巻き込む	に	166	事件(17)	
49	呼び掛ける	を	91	参加(12)	
50	押し付ける	を	131	顔(9)	
51	見直す	を	165	~方[例：あり方](12)	
52	乗り出す	に	138	調査(9)，捜査(6)	
53	思い付く	を	96	こと(31)	
54	辿り付(着)く	に	166	場所(16)	
54	引き摺る	を	122	足(28)	
56	取り扱う	を	84	問題(8)	
57	話し掛ける	に	108	【人名】(30)	
58	取り除く	を	187	原因(6)，不安(5)，障害(5)	
59	取り込む	を	96	洗濯物(5)，画像(4)，栄養(3)，情報(3)	
59	振り向く	を	57	ほう(18)，後ろ(13)，【人名】(8)	
61	引き継ぐ	を	112	あと(4)，これ(4)，会社(4)，伝統(4)，事件(4)，流れ(4)	
62	突っ込む	を	105	首(21)，手(17)，頭(9)	
63	入り込む	に	124	中(18)，世界(5)，部屋(5)	
64	思い込む	と	186	【文】(120)，もの(9)	
65	打ち込む	に	88	仕事(8)	
66	見込む	が	115	~こと[が見込まれる](29)	
66	結び付ける	を	110	と(13)，~人[助数詞](5)	
68	落ち込む	に	51	穴(6)，中(5)	
68	付け加える	を	60	こと(11)	
70	駆け付ける	に	82	応援(6)，現場(6)	
70	飲み込む	を	112	唾(19)，言葉(11)，生唾(6)	
72	読み取る	を	91	情報(4)，傾向(4)	
73	盛り込む	を	106	など(13)，方針(5)，こと(4)	

74	取り巻く	を	228	【人称代名詞】(22)，それ(12)，子ども(10)	
74	持ち出す	を	142	話(13)，こと(12)，話題(5)	
76	覗き込む	を	186	顔(43)，中(17)，目(14)	
76	見送る	を	129	【人称代名詞】(18)，【人名】(13)，後ろ姿(11)	
78	見回す	を	190	あたり(59)，周囲(24)，中(21)	
79	組み込む	に	125	中(20)，~体制(3)，プログラム(3)	
80	持ち上げる	を	136	頭(8)，グラス(5)，石(4)	
81	し掛ける	を	122	攻撃(20)，戦争(10)，爆弾(8)，罠(6)	
82	見張る	を	158	目(93)，眼(11)，【人称代名詞】(6)，【人名】(3)	
83	言い替える	と	27	【文】(27)	
84	受け継ぐ	を	85	伝統(5)，血(5)	
85	逃げ出す	から	37	そこ(5)，【人称代名詞】(3)，場所(3)	
86	打ち出す	を	128	姿勢(12)，方針(10)	
87	見下ろす	を	170	【人名】(23)，【人称代名詞】(12)，場所(11)	
88	追い込む	に	141	窮地(14)，状況(9)，立場(8)	
89	乗り越える	を	173	それ(9)，危機(9)，困難(9)，試練(7)，壁(6)	
90	立ち止まる	は	33	【人名】(14)，【人称代名詞】(7)，	
90	盛り上がる	が	50	気分(3)，地面(3)，話(3)	
92	見逃す	を	66	こと(8)，事実(4)	
92	呼び出す	を	84	【人名】(17)	
94	切り替える	に/を	122/57	もの(3) / 気持ち(7)	
95	見渡す	を	123	周り(12)，~全体(8)，全体(6)，世界(5)，周囲(5)	
96	通り過ぎる	を	82	前(23)，そば(6)，場所(5)	
97	似合う	に	54	【人名】(6)，自分(6)	
98	引き取る	を	94	息(29)，【人名】(9)，子供(4)【人称代名詞】(4)	
99	思い浮かべる	を	158	姿(19)，顔(15)，こと(14)	
99	指(差)し込む	を	51	キー(4)，USBケーブル(3)，鍵(3)，指(3)	

砂川(2014)では，コーパスを活用した類似表現に関する調査法としてレキシカルプロファイリングを活用した実質語の調査法を紹介した。レキシカルプロファイリングとは，コーパスを利用して語の共起関係や文法的な振る舞いなどを調査した情報を蓄積し,その結果を統計的に処理した上で，その語の特徴

的な振る舞いを提示するものである(砂川(2014:9))。本研究もBCCWJという大規模なコーパスを利用して，出現頻度の高い複合動詞の共起関係を調査した。本章では，BCCWJに出ている出現頻度1位から100位までの複合動詞の文法的及び意味的な特徴を，共起する「助詞」と「語句」によって分析する。本研究で取り扱っている複合動詞は一般的に「動詞ます形+動詞終止形」の形をしているものとする。ただし、本研究では，「動詞ます形+動詞終止形」の形をしているものの，日常的に「動詞+動詞」の組み合わせであると認識されておらず，一つの動詞として考えられている以下の複合動詞は除外した。括弧の数字はBCCWJ固定長で調査した出現順位である。

「見付ける」(3)，「出掛ける」(5)，「し払う」(15)，「申し上げる」(24)，「し上げる」(47)，「し掛ける」(81)

5.1 共起する助詞

本調査では，複合動詞と共起する助詞が明らかになった。調査した出現頻度の高い複合動詞の中で，共起する助詞を多い順番に挙げると，「を」(60語)，「に」(20語)，「が」(6語)，「と」(5語)となる。

5.1.1 助詞「を」

本研究では，助詞「を」と共起する複合動詞が最も多いということが判明した。「乗り越える」と「通り過ぎる」の2つ以外の61語は全部他動詞である。つまり，助詞「を」はそれらの複合動詞にかかわる目的語を表すために使用されている。例えば，出現頻度1位の「繰り返す」と2位の「思い出す」の例文を見てみよう。

(1) 失敗「を」繰り返す
PB45_00236
間取りの失敗は人によって様々ですが，いくつか共通点があります。環境や構造に関係した失敗例をまとめてみたのが表1です。同じ失敗を繰り返さないためにはどうしたらよいかを少し考えてみましょう。 (佐川旭(2004)『一戸建てはこうしてつくりなさい』ダイヤモンド社)

(2) こと「を」思い出す
PB39_00616
しかし，彼はなかなか現れなかった。「やっぱりだめなのかしら…」何度も不安になった彼女だったが，その度に一枚の紙片を胸にあてて，彼のことを思い出していた。その彼女の思いが通じたのか，やがて彼は現れた。地上二百八十メートル，天の川にもっとも近いスカイラウンジで，彦星の彼と織姫の彼女は再会した。 (春樹陽介(2003)『ハートフルラウンジ』文芸社)

同じ他動詞でも前項動詞V1と後項動詞V2の項構造の観点から「を」格を取れるかどうかということ(寺村(1969)，山本(1984))からそれらの複合動詞を分類することができる。寺村(1969)は，複合動詞のV1とV2の意味に着目し，それぞれの意味が複合動詞になっても保持されているかどうかという観点から次の4類型に分類した。

a　自立V＋自立V：走り去る，持ち上げる
b　自立V＋付属V：走り込む，見上げる
c　付属V＋自立V：とり押さえる，打ち眺める
d　付属V＋付属V：とりなす，乗り出す

自立V：自立語として独立に使われる時の意味がそのまま保持されている
付属V：自立語として独立に使われる時の意味がそのまま保持されていない

また，山本(1984)はV1とV2の格支配がどのような形で関わり合っているのかを考察した。

a　V1とV2のいずれもが複合動詞文中の名詞に対する格支配関係を有する

例：男がタバコを投げ捨てる →
- 男がタバコを投げる
- 男がタバコを捨てる

光り輝く，降り積もる，押し開ける，刺し殺す，焼き捨てる，．．．

b　V1のみ複合動詞文中の名詞に対する格支配関係を有する

例：男が空を見上げる →
- 男が空を見る
- *男が空を上げる

降り出す，叱り付ける，食べ過ぎる，読み始める，書き終える，．．．

c　V2のみ複合動詞文中の名詞に対する格支配関係を有する

例：災難が打ち重なる →
- *災難が打つ
- 災難が重なる

打ち出す，打ち破る，引き起こす，取り調べる，．．．

d　V1とV2のいずれもが複合動詞文中の名詞に対する格支配関係を持たない

例：男が失敗を繰り返す →
- *男が失敗を繰る
- *男が失敗を返す

打ち切る，取り乱す，取り締まる，乗り出す，．．．

寺村(1969)・山本(1984)の分類に従うと，目的語の「を」格を取る表3の複合動詞は以下のようになる。

a 類　自立V＋自立V(V1とV2のいずれもが複合動詞文中の名詞に対する格支配関係を有する)
受け入れる，取り上げる，受け取る，取り出す，生み出す，作り出す，取り入れる，
取り戻す，受け止める，組み合わせる，取り付ける，振り向く，付け加える，読み取る，
持ち出す，持ち上げる，受け継ぐ，打ち出す，呼び出す，思い浮かべる　(20語)

b 類　自立V＋付属V(V1のみ複合動詞文中の名詞に対する格支配関係を有する)
思い出す，見詰める，振り返る，見上げる，追い掛ける，見掛ける，持ち込む，
見守る，作り上げる，呼び掛ける，押し付ける，見直す，思い付く，取り除く，取り込む，
突っ込む，結び付ける，飲み込む，盛り込む，覗き込む，見送る，見回す，見張る，
見下ろす，見逃す，見渡す，差し込む　(27語)

c 類　付属V＋自立V(V2のみ複合動詞文中の名詞に対する格支配関係を有する)
引っ張る，引き起こす，引き出す，引き受ける，差し出す，
引き摺る，引き継ぐ，引き取る　(8語)

d 類　付属V＋付属V(V1とV2のいずれもが複合動詞文中の名詞に対する格支配関係を持たない)
繰り返す，取り扱う，取り巻く　(3語)

寺村・山本の分類に従うと，移動の経路を表す「を」格を取る表3の複合動詞は以下のようになる。

b 類　自立V＋付属V(V1のみ複合動詞文中の名詞に対する格支配関係を有する)
通り過ぎる　(1語)

c 類　付属V＋自立V(V2のみ複合動詞文中の名詞に対する格支配関係を有する)
乗り越える　(1語)

5.1.2 助詞「に」

5.1.1節と同じく寺村・山本の分類に従うと，「に」格を取る表3の複合動詞は以下のようになる。

a 類　自立V＋自立V(V1とV2のいずれもが複合動詞文中の名詞に対する格支配関係を有する)
引き上げる　(1語)

b 類　自立V＋付属V(V1のみ複合動詞文中の名詞に対する格支配関係を有する)
飛び込む，乗り込む，巻き込む，乗り出す，話し掛ける，入り込む，打ち込む，
駆け付ける，組み込む，追い込む，似合う　(11語)

c 類　付属V＋自立V(V2のみ複合動詞文中の名詞に対する格支配関係を有する)
出会う，引き続く，結び付く，たどり着く，切り替える　(5語)

d 類　付属V＋付属V(V1とV2のいずれもが複合動詞文中の名詞に対する格支配関係を持たない)

取り組む，落ち込む (3語)

「取り組む」を例として見てみよう。

(3) 問題「に」取り組む

PB34_00301

途上国の貧困削減を地球規模の課題としてとらえ，そのための資金をいかにして確保するのか。簡単には答えの出ない問題に取り組むため，百七十一ヶ国の政府代表や国際機関の代表が集まった。

(宮田一雄(2003)『世界はエイズとどう闘ってきたのか』ポット出版)

5.1.3 その他の助詞

「を」と「に」以外の助詞についても同様に寺村・山本の分類に従うと，以下のようになる。

5.1.3.1 助詞「が」

a 類　自立V＋自立V(V1とV2のいずれもが複合動詞文中の名詞に対する格支配関係を有する)
出来上がる (1語)

d 類　付属V＋付属V(V1とV2のいずれもが複合動詞文中の名詞に対する格支配関係を持たない)
落ち付く，飛び出す，成り立つ，見込む，盛り上がる (5語)

5.1.3.2 助詞「と」

a 類　自立V＋自立V：言い換える (1語)
b 類　自立V＋付属V：話し合う，思い込む (2語)
c 類　付属V＋自立V：付き合う (1語)
d 類　付属V＋付属V：見成す (1語)

5.1.4 複合動詞の類型と助詞の分布

複合動詞の類型と共起する助詞の分布を調べた結果を以下の表4に表す。

〈表4〉複合動詞の類型と共起する助詞の分布

複合動詞	共起する助詞				
	を	に	が	と	合計(%)
a類	20(21.98%)	1(1.10%)	1(1.10%)	1(1.10%)	23(25.27%)
b類	28(30.77%)	11(12.09%)	0(0%)	2(2.20%)	41(45.05%)
c類	9(9.89%)	5(5.49%)	0(0%)	1(1.10%)	15(16.48%)
d類	3(3.30%)	3(3.30%)	5(5.49%)	1(1.10%)	12(13.19%)

合計(%)	60(65.93%)	20(21.98%)	6(6.59%)	5(5.49%)	91(100%)

まず，複合動詞の類型から見てみよう。最も多いのはb類，次にa類，c類，そして最も少ないのはd類である。何(2010)では，日本語学習者にとって理解語彙としても産出語彙としても一番難しいのはd類の複合動詞と指摘している。言い換えれば，最も難しい複合動詞の数が少ないというのは，日本語学習者にとって学習負担が減ることになるといえるだろう。

次に，複合動詞と共起する助詞の統語的関係を考察する。助詞の数について，「を」が約3分の2を占め，「に」が約22%を占めているということがわかった。助詞「を」のほとんど(60語中58語)は他動詞である複合動詞と共起し，目的語を表す役割を果たす。残りの2語(「(前を)通り過ぎる」と「(危機を)乗り越える」)は自動詞で，「を」を取る場合には，目的語ではなく移動の経路を示す。一方，助詞「に」は場所，対象，内部，相互作用などを表す(姫野(1999))。5.1.2節の例を用いて説明する。

場所：　(場所に)引き上げる，(現場に)駆け付ける，(窮地に)追い込む，
　　(場所に)たどり着く，(穴に)落ち込む
対象：　(調査に)乗り出す，(人に)話し掛ける，(問題に)取り組む
内部：　(目に)飛び込む，(中に)組み込む，(車に)乗り込む，(中に)入り込む
相互作用：　(自分に)似合う，(人に)出会う

最後に，助詞「が」と「と」について考察する。助詞「が」は，複合動詞の動作や出来事の主体を表す(例えば，(ものが)出来上がる，(心が)落ち付く，(人が)飛び出す，(ことが)見込まれる(「見込む」の場合は受け身の形で))。助詞「と」は，動作や出来事の内容を引用する際に使用される(例えば，(ものと)見成す)。

5.2 共起する語句

本調査では，複合動詞と共起する語句も調査した。例えば，出現頻度1位の「繰り返す」も2位の「思い出す」も助詞「を」と最も共起しやすく，「こと」という言葉はこれらの複合動詞と一緒に使用される場合が多いことがわかった。ここではまず，共起する主要な語句の種類とそれに関連する複合動詞を見てみよう。

【形式名詞】
こと：　繰り返す，思い出す，結び付く，思い付く，見込む，付け加える，持ち出す，
　　見逃す，思い浮かべる
もの：　見成す，作り出す，出来上がる，作り上げる，切り替える
(動詞+)の：見掛ける，見守る

【代名詞】
それ：　受け入れる，受け取る，受け止める，乗り越える

そこ： 逃げ出す
【人名】 見詰める，出会う，立ち上がる，付き合う，飛び出す，話し合う，見上げる
思い切る，話し掛ける，見下ろす，立ち止まる，呼び出す，似合う

【問題】 取り組む，取り上げる，取り扱う

【仕事】 引き出す，引き受ける，打ち込む

いうまでもなく，それぞれの複合動詞を調べると，それぞれ最も共起しやすい語句を特定することができる。例えば，「繰り返す」と一番多く共起するのは「こと」で，「取り上げる」と一番多く共起するのは「問題」である。

(3)「問題」を取り上げる
LBr4_00031
ところが厚生省の精神衛生部会の委員で，国立精神保健研究所の吉川武彦所長（当時）が，その直後に開かれた日本精神衛生学会という学会のシンポジウムでこの問題を取り上げて，厚生省のそのときの調査は通り一遍のもので，患者の状態について実質的に調査した形跡がまったくないということを暴露して，論争になりました。 (小田晋(2003)『心の病気と犯罪についてすべてお話しましょう』双葉社)

以上の〈「○○」を取り上げる〉の「○○」に入るものとしてはさまざまな可能性があるが，コーパスからは「問題」と共起する使い方が一番多いことが提示されたので，学習者にとって複合動詞を学習する際，優先的に学習したほうがよい使い方ではないかと考えられる。このようにコーパスから得られたコロケーションの情報を利用して，習得に難しいと思われる複合動詞において習得の優先順位を決めることは，複合動詞の習得問題を解決するための方法の一つになる。もちろん，一つの複合動詞に共起できる助詞や語句はたくさんある。例えば，6位の「取り組む」の場合，「問題に取り組む」という形で現れることが確かに多いが，「○○」に取り組むの「○○」を調べた結果，実際には，次のようなコロケーションがある(紙面の都合で一部のみ掲載する)。

「~作り」に取り組む (17語)
「~化」に取り組む (12語)
「~活動」に取り組む (11語)
「課題」に取り組む (9語)
「~改革」に取り組む (9語)
「~開発」に取り組む (6語)
「~育成」に取り組む (6語)
「~の事業」に取り組む (5語)
「~課題」に取り組む (4語)
「~運動」に取り組む (3語)

「~解決」に取り組む　(2語)

しかし，日本語学習者の負担を軽減するため，最初はすべてを学ぶ必要がないのではないだろうか。むしろその中でよく使われるパターンを一つか二つ覚えさえすれば，もう少し楽に学習できると考えられる。

6. 今後の課題

本稿では，大規模コーパスを通して現代日本語複合動詞の使用について調査を行い，複合動詞のコロケーションを示すことができた。今後はこれらのコロケーションを生かし，日本語母語話者なら誰でもよく使う複合動詞を優先的に導入することを目指したシラバスや教材を，引き続き開発していきたい。

【参考文献】

石井正彦(2007)『現代日本語の複合語形成論』東京：ひつじ書房

何志明(2010)「習得しやすい日本語複合動詞とは何か？―香港人中上級日本語学習者の習得及び使用実態予備調査を通じて―」『日本語/日本語教育研究』vol.1 東京：日本語/日本語教育研究會 pp.227-244

_____(2012)「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』及び中上級日本語教科書における複合動詞の出現頻度」『日本語/日本語教育研究』vol.3 東京：日本語/日本語教育研究會 pp.261-276

_____(2014)「日本語母語話者はどのような複合動詞をよく使用しているか―大規模コーパスと国語教科書の調査結果を通して―」『2014年度日本語教育学会春季大会予稿集』東京：公益社団法人日本語教育学会 pp.309-314

砂川有里子(2010)「コーパスを活用した日本語教育研究」砂川有里子・加納千恵子・一二三朋子ほか(編著)『日本語教育研究への招待』pp.99-119. 東京：くろしお出版

_____(2014)「コーパスを活用した日本語教師のための類似表現調査法」『日本語/日本語教育研究』vol.5 東京：日本語/日本語教育研究會 pp.7-27

寺村秀夫(1969)「活用語尾・助動詞・補助動詞とアスペクト―その一―」『日本語・日本文化』第1号，大阪外国語大学研究留学生別科 pp. 32－48

姫野昌子(1999)『複合動詞の構造と意味用法』東京：ひつじ書房

松田文子(2004)『日本語複合動詞の習得研究―認知意味論による意味分析を通して―』東京：ひつじ書房

山本清隆(1984)「複合動詞の格支配」『都大論究』21 東京都立大学 pp.32－49

〈 요 지 〉

일본어 복합동사의 콜로케이션
-대규모 코퍼스 조사결과를 통하여-

본고는 현대의 언어자료인 대규모 코퍼스, 즉 대학공동이용기관법인 인간문화연구기구 국립국어 연구소가 개발한 『현대 일본어 문어 균형 코퍼스』 (Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese (BCCWJ))를 통해 출현 빈도가 높은 일본어 복합동사와 그것과 관련된 언어 항목(공기(共起)하는 조사와 어구)을 조사하여 복합동사와 그 콜로케이션에 대해 고찰한다. 현재 복합동사는 일본어 교육 현장에서 적극적으로 도입되고 있다고는 말할 수 없다. 그 이유는 방대한 수의 복합동사를 모두 가르치는 것은 어렵고, 어떤 것을 실러버스에 우선적으로 도입해야 할지 모르는 것이 그 이유이다. 복합동사를 도입하기 위해 수업 준비를 할 때 교원의 부담을 경감하는 방법으로 필자는 초기 단계에서 모든 복합동사가 아닌 일본어 모어 화자가 자주 사용하는 복합동사와 그 사용법을 우선적으로 가르치는 것을 제안하고 있다. 본고에서는 BCCWJ에서 출현 빈도가 높은 일본어 복합동사와 그 콜로케이션에 관한 데이터를 조사하고, 앞으로 복합동사의 지도에 필요한 정보를 제공하는 것을 목적으로 한다. 본고의 주요 조사 결과는 다음과 같다.

1. 콜로케이션의 관점에서 볼 때 「を」는 가장 많은 복합동사와 공기할 수 있는 조사이다.
2. 일본어 학습자가 복합동사의 콜로케이션의 정보를 잘 이용하면 복합동사를 효율적으로 학습하는 것이 가능하다고 생각된다. 복합동사를 학습 할 때 동사 그 자체뿐만 아니라 그 복합동사가 어떤 조사와 공기하며 콜로케이션으로서 어떠한 관련 어구가 사용되는지의 정보까지 알 필요가 있다.

논문분야 : 코퍼스 언어학
키 워 드 : 일본어 복합동사, 코퍼스, 콜로케이션, 서베이

▣ 호치밍(何志明)
香港中文大学 日本研究学科 准教授
hochiming@cuhk.edu.hk

■ 投 稿 日 : 2015년 3월 20일
■ 審査開始 : 2015년 4월 13일
■ 審査完了 : 2015년 5월 3일
■ 掲載確定 : 2015년 5월 18일

■ 편집위원회(編輯委員會)

委員長 : 홍민표(계명대)
幹　事 : 양민호(성결대)

【委 員】

<국내>
금종애(충남대)
김유영(동덕여대)
김은숙(평택대)
박해환(숙명여대)
齊藤明美(한림대)
송은미(백석예술대)
오현정(건국대)
이미숙(명지대)
이은미(명지대)
정상미(신라대)
정상철(한국외대)
황영희(한양사이버대)

<국외>
김경분(明星大学/일본)
김정민(麗澤大学/일본)
林慧君(国立台湾大学/대만)
三宅和子(東洋大学/일본)
森山新(お茶の水女子大学/일본)
塩田雄大(NHK放送文化研究所/일본)
이덕영(호주국립대/호주)
최장원(国際教養大学/일본)
張威(人民大学/중국)

日本語學硏究　第44輯

2015年　6月 17日 印刷
2015年　6月 20日 發行

發 行 : 韓國日本語學會

印刷·普及處 : 도서출판 책 사 랑
130-824 서울시 동대문구 용두동 767-1 201호
전　화 : (02)929-4547　FAX :(02)929-4548
E - mail : idid-yeol@hanmail.net
등　록 : 2000년 10월 07일　제7-850호

ISSN 1229-7275
http://dx.doi.org/10.14817/jlak

이 학술지는 한국연구재단 등재학술지입니다.

이 학술지는 2014년도 정부재원(교육부)으로
한국연구재단의 지원을 받아 출판되었음.